

市民病院だより

— 地域と共に考える医療 —



多治見市民病院
病院長
今井 裕一
Hirokazu Imai

問 市民病院 ☎22-5211

2024年度へ向けて

新型コロナが始まり丸4年になります。この流行は、医療界に大きな影響を及ぼしています。東濃地区全体で看護師を含めた医療者が不足しています。東濃地区では土岐市にある東濃看護専門学校が、入学者が年々減少し令和6年度に閉校になります。それに付随して多治見市医師会立准看護学校も令和8年度に閉校の予定になっています。最近では看護大学卒業生が看護師になることが主流になってきていますが、多治見市には看護大学はありませんので、他の地区の卒業生から採用することになります。かなり難しい任務になっています。

さらに理不尽なクレームによって心が折れる病院職員も出てきています。先日も暴力事件として多治見警察署に相談した件もあります。多くの患者さんからは感謝の言葉をいただいておりますが、中には、「職員の〇〇をクビにしろ」、「土下座して謝れ」、「ネットへ書き込む」とか、利用者に

よる脅迫・職場妨害(カスタマー・ハラスメント)が生じています。これも職員が離職する大きな原因になっています。病院としては患者さんの要望に適切に応えないといけません。しかし、過度な要求や暴力的な文言あるいは脅迫に対しては、毅然とした態度で職員を守らないといけません。わずか数名のクレイマーのために重要な職員をなくしては、医療自体が崩壊していきます。

私たちは、皆さんからの「ありがとう」で立ち直る事が出来ます。「改善してほしいこと」がありましたら、病院ホールにいる看護師長に相談してください。

多治見市の医療は、医師会会員の施設、県立多治見病院、多治見市民病院で成り立っています。医療者も患者さんもお互いが愛情を持って医療をよくしていきましょう。